

東北復興日記



133

昨年八月に「福島県南相馬発 坪倉正治先生のおよくわかる放射線教室」の日本語版初版を二万冊作製して、三週間で増刷になったことがありました。これは市井の皆さまが本当の情報を欲しいと思っっていることの表れではないかと感じています。

小冊子を持参して九月に上



ベテランママの会 主宰
番場さち子さん



都内に福島県民の拠点

京した際、インターナショナルスクールに子どもを通わせているママたちとの出会いがありました。そのスクールでも生徒が減っていること、県外に出た時に起こる、いわれなき差別。転勤などで外国に行った時に「危険な日本に居たのか」と同じように言われてしまうのでは、と不安を訴える声を聞きました。

漢字が読めない子どもたちのために英語版を作る約束をして、すぐ取りかかり、日本語版出版から二カ月で英語版をお披露目できました。

一方、東京デビューはしたものの福島出身ということ

引け目を感じたり、差別されたりするという学生たちからの相談が多々、舞い込みます。不登校や引きこもりの相談も増え、福島の出身者が心置きなく集まれる拠点が欲しいと考え、三年半かかって東京・目黒の駒場東大前に「番来舎」を昨年秋にオープンすることもできました。福島出身者だけでなく、福島に寄り添い、支援してくださる方にぎわっています。写真。

先日、日本トルコ文化交流会より「第一回日本復興の光大賞」をベテランママの会が受賞させていただきました。

審査委員長の池上彰氏は「正しい情報を冊子まで作製して

世に広めたことや英語版まで作って世界に発信したこと、自腹で福島県民の拠点を作ってケアしていること」を評価してくださいました。ひとえにかかわってくださいました皆さまに感謝の思いです。これからも弱者に寄り添い、やさしい空間作りをしていきたいと考えています。

◇ 番来舎の住所は、目黒区駒場の二八の一、駒場田村ビル三〇四号室。電〓03(6407)1566。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。